

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
16 木曾岬町	対談項目1 海拔ゼロメートル地帯における防災対策について	鍋田川右岸堤防の耐震化事業の早期施工について	<p>満潮時には鍋田川堤防の天端から2mまで潮位が上がります。大地震発生によって、堤防が沈下することも発表されています。</p> <p>国直轄で木曾川左岸堤の高潮堤の耐震化が行われており、また、県管理で長島海岸堤、城南海岸堤の耐震化は進んでいるのに対し、同じ県管理の鍋田川右岸堤防は進んでいません。</p> <p>鍋田川河口部の住民は、愛知県側は耐震化工事が進んでいる一方で、当方の右岸側は工事が進んでいないことに不安を感じています。早急に実施していただきたいと考えています。ついては、県管理部分の状況と今後の取組についてのお考えをお聞きます。</p>	<p>河口部の堤防の補強については、県全体の今後の風水害、南海トラフを考慮した優先度を付けながら、河川堤防の整備を順次進めています。東日本大震災後、優先度の高いところについては、平成25～29年度にかけて183箇所補修を行うこととしています。</p> <p>鍋田川右岸堤防については、伊勢湾台風の復興計画に基づいて整備されたものであり、平成9年度に策定された鍋田川全体計画の計画堤防高が確保されており、高潮対策としては対策済と考えています。</p> <p>こうした中で、耐震対策を早期に進めるのは県だけで実施するのは難しいので、国が実施している木曾川堤防の耐震対策とあわせて国による鍋田川右岸堤防の耐震補強工事の実施を要望しています。</p> <p>5月、6月と夏にも国との協議会や意見交換会の場で要望してきたところですが、要望するだけでなく、県としても要望区間の状況を把握するために地形測量を実施しました。今後とも、引き続きあらゆる機会をとらえて国に強く要望していきます。</p> <p>これまでの町長との対談等を通じて堤防近くにお住いの地域住民の方々の思いは、県としても十分受け止めさせていただいていますが、愛知県とは抱える課題が違い、事業についての優先順位が異なることもご理解いただきたいと思います。</p>
木曾岬町	対談項目2 県境における一体的な地域づくりについて	名古屋第3環状線の早急な事業推進について	<p>木曾岬町道と並行する名古屋第3環状線が未整備であるため、町内の通過交通が年々増加しており、生活環境が脅かされています。愛知県への働きかけについて、お考えをお聞きます。</p>	<p>名古屋第3環状線が未整備であるため、並行する木曾岬町道の交通量が1日5,000台を超えていると認識しており、木曾岬町、弥富市と連携して整備促進を愛知県に働きかけていきます。</p> <p>なお、公共事業については、整備によるストック効果を明確にしていくことが重要であり、期待できるストック効果を愛知県に示すなど、町と協力して働きかけていきたいと思っています。</p>
木曾岬町	対談項目2 県境における一体的な地域づくりについて	伊勢湾岸自動車道弥富・木曾岬インターからの接続道路の早期整備について	<p>木曾岬干拓地の土地利用を進める上でも、干拓地南部から愛知県へのアクセス整備が重要です。愛知県へのアクセスについて、県の取組、進捗、お考えをお伺いします。</p>	<p>干拓地から愛知県側へのアクセス道路については、都市的土地利用後の需要がどれくらい出るのかなどが大事になってくるので木曾岬干拓地土地利用検討協議会で議論し、愛知県、名古屋港管理組合へ働きかけていきます。その際、土地利用担当部局だけでなく、道路担当部局とも連携して働きかけをしていきたいと考えています。</p>
木曾岬町	対談項目3 教育分野の財政支援について	生活支援員(介助員)、学習支援員の配置支援について	<p>特別支援教育の充実を図るために、生活支援、学習支援の財政面で支援について、県の考え方を伺います。</p>	<p>特別支援学級の編制については、標準法により1学級8人が基準となっていますが、県では児童・生徒の障がいの状況に応じて、小学校で平均4人、中学校で平均4人で編制し、きめ細かく対応しています。木曾岬町においては、3学級の特別支援学級を設置しています。</p> <p>この特別支援教育支援員については、市、町に地方交付税措置がなされています。</p> <p>また、市町の特別支援教育コーディネーターを支援する特別支援教育支援員については、国の中央審議会で配置について議論されており、今後の動向を注視し、対応していきます。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
木曾岬町	対談項目3 教育分野の財政支援について	指導主事の配置に関する新たな県の財政支援について	教育指導主事の設置に係る財政的なバックアップ、県の支援について、考え方を伺います。 この件については町村会でも議論しているのでよろしくご検討をお願いしたいと思います。	学力向上の面で木曾岬町は好成績を収めていただきました。町の指導主事の配置については、秋田県などの取組を視察してきましたが、町によっては、指導主事が十分に配置されていない現状もあるので、全部を県費負担により指導主事を配置することは難しいところですが、小規模自治体の教育委員会の学力向上の取組を支援するため、新たな地域機関の体制について検討していきたいと考えており、ご相談させていただきたいと考えています。